

学校飼育動物の冬の対策

寒い冬、自然界のウサギは、巣穴に入って生活します。チャボやニワトリは、原産地が東南アジアであり、元来暖かい地域に住む動物なので寒さには弱いのです。これらの動物には、11月になったら巣箱での飼育が必要です。動物の健康への配慮を行うことで、子どもたちは命の大切さに気付いてくれることでしょう。

巣箱 基本的には木製で作るが、雨がかからない場所ならダンボール巣箱としてもよい。

- ウサギ（1～2匹用）
 - ・ 寸法は、間口45cm、奥行き40cm、高さ40cmぐらいの箱
 - ・ 可動式の蓋に出入り口をつける。出入り口の大きさは、横10cm、高さ12cmぐらいにして、ウサギの体の大きさに合わせる。出入り口が大きすぎると、箱内の温度が下がり、保温にならないので注意する。
 - ・ 素材は木製がよいが、合板はホルマリンガスが臭うため、動物が嫌う。木製が間に合わないときは、ダンボール箱に出入り口をつければよい。
 - ・ 新聞紙を敷いておき、蓋を開けて毎日新聞紙を取り替えて糞などを取り去って管理する。
- チャボ
 - ・ チャボの巣箱もウサギと同様に作る。
 - ・ 寸法は、ウサギと同じぐらいの箱で3羽ほど入れる。
 - ・ 入り口はウサギより高い20cm近くにしますが、実際にチャボが入れるかどうかを子どもに工夫させるとよい。

防風と防寒

- ・ 風通しがよすぎる飼育舎の場合、可能な範囲で外から厚いビニールを貼って風を防ぐとよい。4月中旬には必ずビニールを除去する。
- ・ 小鳥やモルモットなどは、校舎内の籠で飼う。夜にはダンボールの箱をかぶせて防寒する。飼育舎で飼う場合は、巣箱とビニールによる防寒が必要である。
- ・ ビニールの中で、上部に一つ白熱電球をつけておけば暖がとれる。

栄養

- ・ 動物の体力を落とさないように、休日にも新鮮な水と餌を与える。（「命には休みがない」と、子どもに伝えるために、保護者等の支援を受けるとよい。親子の良い会話につながる。）
- ・ 学校開放や行事の際に学校に集まった親子等が、学校飼育動物の世話をしている例もある。
- ・ 特に小鳥は、一日絶食すると約半数が死亡し、一日半絶食すると全て死亡するので、注意する。

巣箱の事例

事例1 高さ50センチの棚の上に巣箱を置いている。ウサギが上り下りする坂道が付けてある。



可動式の蓋とし、中に敷いてある新聞紙を毎日取り替えて掃除する。



事例2 チャボのための児童制作の巣箱。これも蓋は可動式である。



事例3 奥が木製巣箱、手前がダンボール製の急場用巣箱である。ダンボール製の急場用巣箱は、壊れたら新しい物に交換する。



ダンボール製の急場用巣箱は、防寒対策として、小さな入り口を残して、すべて締め切る。(箱が風で飛ぶと怖がって入らなくなるため工夫する必要がある。)

